完全版

特別対談　「新しい高中」

高津　憲　校長
×
半野田　聡　副校長

「新しい高中」というテーマで、校長先生が着任してから現在にいたるまでの高中の変化や副校長先生から見た高中の印象、また今後の展望などについてお二人に語ってもらいました。

教育目標と生徒主体の学校運営

校長　昨年度、高井戸中学校（以下、高中）に着任しましたが、まず一番大切な学校の教育目標が浸透していないなというところから始まりました。教育目標「ゆたかな人・ねばり強い人・たくましい人・よく考える人」これらを生徒たちに浸透させたいというのが最初ですね。1年間かけて朝礼などで教育目標を覚えている？と話を投げかけ、考えるように促してきました。今年度は全学年とも教育目標の中から選んで1学期の目標を立ててもらいました。

　そして今年度は生徒主体の学校運営をしていきたいと思っています。学校は生徒たちのためのものなので、生徒たちが楽しく登校できるようにしたいと考えています。また「夢ＨＵＧ」というキャッチフレーズを考えました。夢をはぐくめるようにＨＵＧしようという意味ですがキャッチフレーズにしたことでわかりやすくなったかなと思っています。

　この前の体育大会では、楽しくなるようにＴシャツを作ったらどうかと僕の方から投げかけましたが、これからは生徒たちや先生たちからどんどん意見を出してもらえたらよいなと思っています。

　今までは先生主体だったのを生徒主体にしていくところが大きく変わったところかなと思います。学校は勉強だけするところではなくいろいろなことを学ぶ場所であり、先生や先輩、同級生から学び、また地域の方や保護者から学んだことを主体的に考えてどのように取り組むかというのが社会に出たときに一番大切なことだと思っているので、常に念頭に置いて学校運営をしています。

　副校長先生は今年度初めて副校長になってどのように思っているのか聞かせてください。

高津　憲　校長

副校長　今年度、高中に着任しましたが実は中学校自体が初めてで以前は先生たちが細かく決めていることが多いのかなというイメージでした。しかし、実際は生徒たちの自主性をかなり重んじているなという印象です。教育目標の「ゆたかな人・ねばり強い人・たくましい人・よく考える人」は一見漠然としているかなと思いますが、一人一人に具体的に考えさせているところがとてもよいと思っています。それぞれが考えて目指すところに進んでいくところが高中のよいところなので、今後もそういうところを伸ばしていければ高中の発展につながっていくのかなと考えています。

高井戸チャレンジルームという取り組み

校長　あと今年度は高井チャレンジルーム（以下、ＴＣＲ）という取り組みをしています。不登校の生徒たちの居場所や仲間作り、また周りの人たちにも理解してほしいという思いがあります。これをきっかけに学校に来てＴＣＲで勉強したりしてほしいです。最近では体育大会に参加したり見学したり、また係の仕事をしたいという生徒がいたりと前向きになっていてうれしく思いました。教室に戻れなくても学校やクラスのために何かしたい気持ちがあれば周りから認められるだろうし、こういう場所があって学ぶ機会があったらよいなと思いＴＣＲを作ったので本当によかったです。できたばかりでどういう方向がよいのかなかなか見えないけれど一つのきっかけ作りになったことは確かなので、今後どのようにしていこうかと考えています。

　どこの学校も不登校の数が多くなってきていますが、学びの保証をして少しでも学校

に楽しく来られるのが大切なことであり、また令和４年度からの杉並区の教育ビジョンが「みんなのしあわせを創る杉並の教育」なのでそのことも考えています。

副校長　高中で今年度からＴＣＲを運営してくというのはよいなと思いました。校長先生がおっしゃったように教育課題の大きな一点として不登校があり、特に中学校だとその数が非常に多くどこの学校でも抱えている課題です。不登校の生徒に学校に来てほしいという思いがありつつも、さまざまな業務があるなかでどう具体的にしていくのかが難しいところだと思います。今回、高中がそれを具体化して、教室に行くだとか集団の中で過ごすことにハードルを感じている生徒にとっては来やすい場所なのかなと思います。実際、ここに来る生徒も当初より増え確実にきっかけ作りになっています。今後は一人一人に合わせてどのように支援していくか、今以上に先生が顔を出す機会を増やすことによりＴＣＲに通っている生徒がちょっと教室に行ってみようかなとか、授業に出てみようかなということにつながっていってほしいと強く思っているところです。中学生になると成長段階で将来や進学のことなどこれまで以上に本人なりの悩みや課題が出てくるので、学校がしっかり対応していくための一つがＴＣＲだと実感しています。

　また校長先生もいろいろお考えだと思うので手伝えることはどんどんしていきたいなと考えています。

半野田　聡　副校長

時代に合った教育

校長　今後については、生徒が自分たちでいろいろなことを考えて行動できるようにしたいです。先生が教える時代は終わったかなと思っていて、先生は生徒たちを支援する形にしたいなと思っています。授業もそうだし部活動もそうだし委員会や生徒会などもそうだし、生徒たちが行動することを先生たちが支援する、地域の方やＰＴＡの方、保護者が支援していくという学校に変わっていくのが僕の理想です。生徒たちだけでいろいろなことに取り組むというのは大切だと思っていて、勉強もするし運動もするし心も育もうというところを推進していきたいなと思っています。

副校長　校長先生もおっしゃったように、生徒たちの自主性を求めていくのが時代に合った教育かなと思います。ＴＣＲの生徒たちも含めて生徒全員が学校に来てよかった楽しかったと思えるために何をしていくのかと考えると、自分が役に立ったとか友達のためになったとか学校のためになったとか家族のためになったとか、そういった何か実行をして役に立ったという感覚を持てるような指導を突き詰めていけたらなと考えています。そこは小学校との連携も含めて大切だと思うのでお役に立てたらなと考えています。

たくさんの生徒が先生になりたいと思えるような学校を

校長　あと、学校のことではないけれど野望があって。今、学校の先生になりたい人が少なくなってきているけど、将来先生になりたいと思える教育をして先生になりたい生徒が増えるとよいなと思っています。一番大きな目標はそんなことを考えています。たくさんの生徒が先生になりたいと思えるような学校を作っていきたいなというのはありますね。

副校長　ある研修に行った時に声をかけられたのですが、教え子が教員になっていました。

校長　先生をしていてよかったなと思うのは、例えば成人式の時に一緒に飲み会しましょうとか結婚式に招待してくれるとかですね。そういう時に先生をやっていてよかったなと思います。高校を卒業して大学決まりましたというのも一つの節目だし、あんな大変なことあったよねとかいろいろな思い出がよみがえってくるような話をしたいというのはありますね。

副校長　校長先生の先ほどの話につながりますけど、そのためには生徒だけでなく保護者とも同じように関係が築けていることが大事ですね。

校長　今はコロナだからなかなかつながりが持てない部分がありますが、だんだん収まってきているのでいろいろなところでお話をする機会があるとよいなと思っています。